

地域と共に生きる生徒の育成

鯖江市中央中学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	0回
地域及び家庭への学校公開	8回(のべ) 9日

(2) 地域人材の活用(のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	25人
授業ボランティア	0人
登下校支援ボランティア	10人
その他()	0人

(3) 特色ある活動

テーマ	「心の教育の充実」
-----	-----------

具体的活動内容

① 生徒会本部役員によるアルミ缶回収・使用後のトナーカートリッジ回収の呼びかけ

北側生徒玄関前にアルミ缶回収所を、また、生徒玄関横にカートリッジ回収ボックスを置き、生徒会が、登校の際持って来るよう全校生徒に呼びかけている。収益金は、福祉活動や生徒会活動に使い、全生徒の協力が大きな力になることを実感している。

② 保健委員によるエコキャップ回収運動と、寄付によるポリオワクチン購入の協力

各学級で、保健委員が回収への協力を呼びかけている。今年は4年目で、これまでに約48万個のキャップが集まり、約600人分のワクチン購入に協力でき、世界が直面する環境や貧困の問題を考え、行動するきっかけともなっている。

③ 光道園との、『買い物ボランティア』の継続実施

4月～3月までに計6回、日曜日の午後、アルプラザ鯖江で、光道園の方の買い物の補助を中学生が行っており、この事業は、約20年続いている。

④ 『地区体育大会』への、選手としての参加と、運営ボランティアとしての協力。

6月の地区体育大会の日は部活動を中止し、大会参加を推進している。放送・プラカード・準備・バザーなどで活躍する生徒の姿が見られ、有意義である。



☆放送の仕事をお手伝い☆

⑤ 6月と3月の全校生徒による『部活動デー』での、勤労体験・奉仕活動。

神明駅、学校前歩道橋、三六武道館・市総合体育館など、日常生活や大会で使わせてもらっている施設を清掃し、感謝の気持ちをもちマナーを守ることを学んでいる。

⑥ 被災地支援の募金活動・激励の寄せ書きやメッセージ付きノートの寄贈

震災後の4月、生徒会で募金活動をし、義援金と学級ごとの寄せ書きをPTA会長が宮城県を訪問し届けた。また、『生徒一人一人が被災地の子ども達を勇気づける目的のメッセージ付きノート約1,000冊』を、市P連を通じて岩手県大船渡市に届けた。

⑦ 吹奏楽部のハートフルコンサートの実施。なばなまつり。

被災地を元気づけようと、1回目は吹奏楽部と合唱部が「鯖江中・東陽中」と、2回目は吹奏楽部が「三国中」と協力し、鯖江市文化センターでコンサートを開いた。『響け！復興のハーモニー』の願いのもと、心のこもった演奏がくりひろげられた。

⑧ 道徳だよりの発行

家庭へのおたよりに、年間14回の『道徳だよりの』が加わり、あらすじと生徒の感想をのせ、保護者への啓発を図った。おたよりをもとに、道徳の内容が食卓で話題にあり、親子の会話が交わされたのは、有意義で大変うれしいことである。

⑨ 『まなべの館』での「児童画展」作品鑑賞

夏休み中に鯖江市『まなべの館』で開催された「木水育男指導児童画展」の作品鑑賞を夏休み中の課題とした。日本一の美術教師と呼ばれた木水先生に指導された中央中の先輩の絵に触れるとともに、市の文化施設を知ることができ貴重な経験となった。

⑩ 「エスペランサ」さんの講演会

7月12日に、全校生徒と保護者を対象に、「明日が今日より幸せであるためにできること」をテーマに、講演会を開催した。困難を乗り越える勇気を持つことと、周りの人と協力して生きることの大切さを、演奏と経験談をもとに伝えていただいた。

成果と課題

- ◇ ボランティア活動への取り組みが、生徒の健全育成や地域行事の活性化につながり多くの方から感謝の言葉をいただいている。また、職場体験や幼稚園での保育実習も含め、体の不自由な方や小さい子供に対する思いやりの心がこれまでより育ってきた。
- ◇ 『挨拶運動』や、被災地への『支援活動』などに、地域・学校協議会委員やPTA役員の協力があり、さらに連携が深まったので、今後も、継続実施していきたい。
- ◇ 学校内外で生徒指導面の問題が継続して起きている。保護者や地域の方にも、善悪の判断が正しくできる生徒に育つよう、今後も積極的に協力をお願いしていきたい。

